

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第17回）会議要録

日 時：平成16年 5月17日（月）午後7時～9時30分

場 所：武蔵野商工会館市民会議室

出席者：東原委員長・小木副委員長・鶴川委員

増山委員・村田委員・永並委員

企画調整課長・財政課長ほか

1 開 会

2 議 事

計画案について、策定委員作成の資料を検討

・市民、議員意見について

【委員長】 ユニバーサルデザインや「事業推進の時間管理」等市民から意見があったものには対応していく。また議員から意見のあった「図書館のウェブサービス」や事業のサンセット方式についても確認のうえ対応する。

・境幼稚園について

【委員長】 境幼稚園については、明確な答えを出すべきだ。計画論で言えば廃止と言わざるを得ない。ただし、廃止に伴う弊害については議論する必要がある。

【委員】 以前の討議では、境に大型マンション等が建つので、様子を見てはという話もあった。

【委員長】 流れは明示する必要がある。態度をはっきりさせないと混乱をもたらすだろう。また、私立の幼稚園に入れている子の親や経営者の意見もかなり厳しくなってきた。

【委員】 負担が公平でないということだ。

【委員長】 公平の観点等からは、委員会として、廃止の方向であるということと言わざるを得ない。

・防災センターについて

【委員長】 防災センターを市民安全センター化し、防災に限らず、より広い機能を持たせるということを書きたい。

・ボランティアの活動の場について

【委員】 「ボランティア活動の拠点が欲しい」「ものの置き場がほしい」という市民意見があり、それをコミセンと関連づけるべきか検討したい。

【委員長】 公益目的の活動の場所は確保できるが、市が金を出して場所を提供するのはどこまでにするのか、その線引きが難しい。多分これまでの市の支

援の範囲を拡大しないといけないだろう。そのことを問題提起しないといけないかもしれない。

【事務局】 活動の場所としては、現在でもある程度確保されていると思うが、自分たちの団体専用の場所という形では、なかなか難しい。

【委員長】 大事なところは結局線引きだ。

【委員】 空き会場などの予約状況を一括管理するシステムはできないのかという意見があったが。

【委員長】 これは情報システムの問題というよりも、管轄が整理されていないということだ。

【事務局】 一つはそうだが、もう一つは市民施設を市が直接統括していないこともある。検討すべき課題である。

・健康・福祉について

【委員】 全般的に高齢者に対して健康維持を推進していく方針は問題ない。書き足りない視点は「障害者の問題」だ。就労のことについて、明確な方向性がなかった。

【委員長】 障害者対策は、欧米のように個人がボランティアでコミットし、それに対して市は補助していくような仕掛けを作る必要があるのではないかと。市が直接すべてをメニュー化するのはむずかしい。

・乳幼児医療について

【委員】 乳幼児医療の無料化も考えるべきだ。東京都の他の区市でサービスのスタンダード化したものは、逆にやらないと、なぜやらないのかと言われるリスクが大きい。

【委員長】 モラルハザードにおちいつているケースもあるので検討すべきだが、乳幼児医療について、私はこれまでの武蔵野の方針を変えたほうが良いと思っている。

・地域の安全・安心について

【委員】 「ご近所の底力を出す仕組みづくり」や「町ぐるみの安全対策」を検討したほうが良い。監視カメラで防災・防犯対策を行ったり、地域でイベントをやって、住んでいる人々の一体感を形成し、安全・安心をつくるなどだ。

【委員】 個人のプライバシーを尊重する傾向が強まるのと裏腹に、近所で力を合わせてという考え方に戻っている部分と2つの方向が出てきている。効果的な仕組みがあれば良いと思うが。

【委員】 本市のような都会的な環境でできることと、田舎のかなり密な社会でできることは違いがあるのではないかと。

・吉祥寺のまちづくりについて

【委員】 吉祥寺グランドデザインのイメージがよくわからないが、投資を

どうやったら呼び込めるかということを考えてほうが良い。

【委員長】 グランドデザインをつくらずに、ただ個別にばらばらで開発していくわけにはいかないが、道筋が簡単には見えてこない。いずれにしろ、これはやらざるを得ない。

中学校給食について

【委員長】 もう一度問題点を整理したい。学校給食法でいう給食を考えている人はいるか。

【委員】 今現状からできることという選択肢の中に、学校給食法による中学校給食はないと考えている。

【委員長】 次に選択制ということがある。給食を選択した人は市の補助を得ることになり、弁当をつくるのがばかばかしくなるシステムは絶対だめだ。費用負担の公平の問題だ。また、母親の選択の幅を増やすことには賛成だ。

【委員】 ある議員によれば、小学校給食用の施設を改築した場合、中学校全体で給食をできるだけの能力は十分持っているとのことだが。

【委員】 その議員は親子給食をできる能力があると考えているようだが、教育委員会では、いろいろな要素があって対応できるかどうか分からないと言っている。

【事務局】 調理場自体が老朽化している問題もある。

【委員】 教育委員会の資料では、中学校給食を実施した場合のイニシャルコストに約10億円、ランニングコストに約3億円かかるとのことだ。

【委員】 そこまでかかったら大変だ。私は、弁当を作るのが厳しい時にお母さんに罪の意識を持たせたくないと考えている。もっと気軽にお弁当を他から購入するという形でできないかなと。学校が幾つかの業者と契約し、中学生にふさわしい昼食ということで、栄養のバランスがとれた、できるだけ食材としてきちんとしたものを提供させるという契約をする。費用は全額自己負担とする。これが一番いいやり方だと考えている。

【委員】 私は別に市が費用を負担するのでなければ、認めても良いと思う。

【事務局】 教育委員会によると、中学生の欠食対策については、各校長先生の判断で、現在は3校で欠食対策として実施しているが、それ以外の学校では解決ができていないので、ほとんど問題視していないとのことだ。

【委員】 欠食対策という言葉はちょっとふさわしくない。

【委員長】 これは親の問題だ。欠食対策というのが、まさにレアケースになっている。

【委員】 計画案には、欠食対策ではなくて、制度としてという書き方ができないか。

【委員】 教育委員会はいま一度、給食問題について考えるときではないか。向こう10年には調理場の建て替え、あるいは委託化の問題もある。「中学校給食をやらない」と平成4年に教育委員会で決定しているが、かなり社会状況も変化してきている。長期計画マターとしては、中学校の問題だけではなく、小学校の給食を今後どうするのかという問題も、ぜひとも教育委員会できちっと考えていかなければならない。

【委員長】 10年たったから見直すべきだというのが、教育委員会も実質的に議論しているのではないか。これまでの話では、従来結論が否定されるほど状況が変わったとは思えない。

【委員】 今どきの中学生は給食のように画一的なものを食べたいと思っているのか。一斉給食の必要はないのではと思うが。

【委員】 食事の個性化ということは、年齢が進めば進むほどあると思う。

【委員】 小学校でも給食を出して食べさせるだけでは、もったいないと思う。食を通じて教育すべきだ。

【事務局】 現在でも栄養士による栄養指導や調理実習、調理員による調理や衛生管理の指導を行っており、今後さらに充実する予定だ。

【委員長】 今日の討議で出された意見では、給食をやるといふほどの論拠にはなっていないと思っている。今後も議論を続けたい。